

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人 清樹会 多機能型児童発達支援事業所 日向の杜		
○保護者評価実施期間	令和7年1月9日		～ 令和7年1月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	令和7年1月9日		～ 令和7年1月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月30日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもとも保護者とも密に接することができる。	日々の活動や送り迎えの時、好きなあそびの時間、れんらくちょうを通して、保護者の方と子どもさんのことを話す機会をつくっている。同じ目線で子どもさんへの対応を考えられるように共有をしている。	個別保育を取り入れる。
2	日向の杜を楽しみにして登園してきてくれている。	子どもたちの状態に合わせたあそびを日々の保育内容に盛り込み、子どもたちが楽しみにできる活動に日頃から職員皆で振り返りをしながら、検討を常に行っている。 親子通園でできる活動を増やしつ、保護者の方に子どもさんの対応方法を具体的に知らせるようにしています。ふれあいあそびでは、特に親子が楽しい、おもしろい時間にできるように工夫をしている。	保護者の方が親子通園したいと思ってくれるような活動の工夫をする。保護者さんの気持ちのリサーチをしていく。
3	お母さん同士、子育てなど話しやすい場がある。	親子通園している保護者の皆さんには、休憩できるお部屋で、職員も入らない保護者さんだけの空間をつくっています。また、保育材料を作ってもらいながら、話しやすい環境づくりを行っています。	保護者さんがほっこりする場を環境を整えていく。
4	子どもたち、ご家族、職員も含めて、楽しい、おもしろい、ワクワクする行事を開催している。	普段取り組んでいることを行事でもすることで、成長を保護者さんに感じてもらえるように工夫しています。 行事開催の会議を頻回に行い、行事の質を高められるように検討を重ねています。 保護者さん向けのチラシの工夫をしています。 インスタを利用して、行事があることを知らせています。	活動のねらいや目的をしっかりと、参加されている方々にわかりやすく伝え、職員と同じ気持ちで行事を盛り上げられる仕掛けを考える。 行事が終わった後に振り返りを保護者の方ともしていく時間を設けていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者の皆さんへの予定表、園だより、チラシ等の配布が遅い。	年間計画はあるものの、月々の配布物の期限が守れず、それでなんとかかかっているところがあった。 保護者の方に甘えていた。 児発管への提出を怠っていたこと、児発管もその確認を怠っていた。 業務と記録等の煩雑さ。整理できていない。	業務と記録等の職員一人一人の整理と、職務分掌の確認を早急にしていく。職員が困っている等があれば改善できるように工夫をする。 配布物の期限を再度確認し、その日までに配布できるようにする。保護者の方への馴れ合い対応をしない。
2	環境整備、特に美化に関して、目が届いていない。 職員が気づかない。 アリアが出やすい。	職員一人ひとりが環境をきれいに使うという認識が欠けている。また、きづいたことがあっても誰かがするだろうという慢心もあり、声かけもしていない。 環境のチェックリストがあるが、記入が4月から止まっていた。 掃除方法の統一ができていない。	職員一人ひとりがきれいに使うことの意識を高めていく。気づいた人が整えることを意識づけたいが、気づかないフリをすることに繋がらないように、全員が整える意識にし、声かけをする。 チェックリストの改正をする。必ず皆が記入する。 掃除方法を統一できるようにマニュアルを作成する。
3	避難時・緊急時などの細かい説明の伝達がうまくできていない。	年度初めの説明会、契約時の説明で保護者の方へ伝えているつもりになっていた。(児発管・児発管サブ) 職員もわかっていない。 職員も年度初めに研修として、運営方針等を説明しているが、それが保護者さんへの説明することとつながっていない。	契約時、年度初めの説明会でわかりやすく説明をする。 職員への意識の向上のため、運営方針等を再度研修を行い、繰り返し伝えていく。保護者さんが困らないように是認が統一する。
4	OT、ST、CPの専門職は配置されていない。	OT、ST、CPの専門的な職員を取り込むことを考えていなかった。 職員の増員は、今のところ経営的に難しい。	保育士の専門性を高めるために研修に行く機会を増やす。発達支援のプロだという意識につながり、職員が自信になる研修に参加する。 研修プログラムを作成する。